



# 複層的文化的理解を目指した教育実践 —中・韓両言語連携プロジェクト紹介—

西 香織 阪堂 千津子  
(明治学院大学) (武蔵大学)

# 1. 連携プロジェクトの概要

『外国語学習のめやす』（公益財団法人国際文化フォーラム編2013）

「外国語の学習を通して、他者を発見し、自己を発見し、自他の理解を深めながら関係性を築き、協働社会を創ることをめざす」

本教育理念をゆるやかに援用しながら、

日本の異なる大学、異なる外国語（中国語・韓国語・ドイツ語）クラス間で連携プロジェクトを毎回、テーマを変えて実施

（西・阪堂・池谷2021）

# 1. 連携プロジェクトの概要

- 第1回 2013年度 「大学生の消費行動比較」(中・韓・独)
- 第2回 2014年度 「古今音楽比較」(中・韓・独)
- 第3回 2015年度 「街角ワード・ウォッチング」(中・韓・独)
- 第4回 2017年度 「平昌冬季オリンピック調査」(中・韓・独)
- 第5回 2018年度 「ここが気になるNIPPON」(中・韓・独)
- 第6回 2019年度 「オリンピック訪日客のための『転ばぬ先のツエ』」(中・韓・独)
- 第7回 2020年度 「コロナ禍の学生生活」(中・韓)
- 第8回 2021年度 「季節のイベント紹介」(中・韓・独)
- 第9回 2022年度 「大学生のライフスタイル比較」(中・韓)
- 第10回 2023年度 「伝統文化」(中・韓)

# 1. 連携プロジェクトの概要

## 本連携プロジェクトの特徴

- ①複数の言語クラスが協働して行う「複文化の学び」であること
- ②目標言語の母語話者とつながるだけでなく、  
「異なる大学」、さらには「異なる言語クラス」を連携させていること

実施内容や進捗を強引に合わせるのではなく、  
異なる環境(大学、学年暦、カリキュラム、授業回数、学習言語…)に  
置かれている言語クラスが無理なくゆるやかに連携できるよう、  
具体的なプロジェクト内容は、クラスごとにアダプテーション

# 1. 連携プロジェクトの概要

①クラス間で大テーマを共有

②各言語クラス内で中テーマ、小テーマを決定し、各自が選んだ小テーマに基づき調査を実施(グループワーク)

目標言語圏の母語話者に協力を仰いだりインタビューをしたりする

③学習者が自らの学習言語を使って得た情報や知識を、成果物として他の言語クラスの学習者と共有、結果についての考察

## 2. 第10回連携プロジェクト

実施時期:2023年度秋学期

参加クラス:中国語クラス(明治学院大学)と韓国語クラス(武蔵大学)

大テーマ:「伝統文化」

中テーマ:

中国語クラス 「日中伝統文化いま・むかし」

韓国語クラス 「韓国伝統文化を日本でもっと普及させるには？」

## 2-1. 中国語クラス:「日中伝統文化いま・むかし」

プロジェクト参加者:2年次開講科目の中国語クラスに所属する13名  
(第二外国語・必修科目)

活動時間:計15回の授業(1回90分)のうちの13回

小テーマ:「日中結婚式比較」

「鬼(おに)と鬼(guǐ)」

「龍~日本と中国の違い」

## 2-1. 中国語クラス:「日中伝統文化いま・むかし」

活動内容:グループごとに各小テーマの伝統的な捉え方と現代の人の捉え方を比較

- ①テーマに従い下調べ
- ②インタビュー内容を決めて中国語で質問をする準備をし、中国の大学の学生にZoomを使ってインタビュー
- ③成果物(中国語と日本語の音声・文字付き動画)を作成
- ④成果物鑑賞後にクラス内で意見交換、  
クラス間ではオンライン掲示板で意見交換



## 2-2. 韓国語クラス:

「韓国伝統文化を日本でもっと普及させるには？」

プロジェクト参加者: 1~3年生の選択科目「合同プロジェクトA」クラス17名 (3年生1名、2年生10名、1年生6名)

活動時間: 計13回の授業(1回105分)のうち、授業時間内の一部もしくは全部をあてて合計9回

小テーマ: 「韓国料理(参鶏湯)」

「韓服」

「伝統結婚式」

「韓国伝統楽器」

## 2-2. 韓国語クラス:

「韓国伝統文化を日本でもっと普及させるには？」

### 活動内容:

- ① 課題説明 (講師)
- ② チームグループ作成。チームごとの課題設定。SNS作成
- ③ 9/28 第1回ZOOM会議
- ④ 9/28-11/15 文献調査、現地調査(Field work)の準備
- ⑤ 11/16 日韓合同で新大久保踏査(韓国文化普及の現状視察)
- ⑥ 11/20- 成果物作成、ループリック(評価基準)検討
- ⑦ 11/30 第2回ZOOM会議
- ⑧ 12/7 成果物作成、リハーサル
- ⑨ 12/14 成果物 口頭発表(日本) -相互評価(日本)-動画アップ

# プロジェクト評価のルーブリック(2023 韓国の伝統文化の効果的な普及方法) (40点満点)

領域 (評価者)	評価基準 観点	1点. も少し화이팅 (ㅡㅡ)!!	2点. あと少し조금 더! (=^_^=)	4点. 오케이!(^o^)	6点. 대박! L(^)▼(^)
ことば (自己, 他人) 正確さ 適切さ 流暢さ	成果物の内容構成・表現	構成や表現に問題があり、内容をうまく伝えることができていない	内容は伝わるものの、構成や表現に工夫の余地がある	分かりやすい構成と表現で、内容を伝えている	受信者を意識した工夫のある構成と表現で、内容を過不足なく伝えている
	韓国語を使ってクラスメートや留学生、観光客とコミュニケーション	韓国語を使って情報交換(第1次調査インタビュー)や情報提供(表現集の作成)をしていない	韓国語を使って情報交換や情報提供ができるが、一過性で終わる	韓国語を使って情報交換したり、提供したりすることで持続的にやり取りしている	韓国語を使って情報交換したり、必要な情報を的確に提供することで良好な関係を構築している
文化 (自己, 他人) 調査比較 分析理解 提案	韓国の伝統文化に対する文化調査・発見・分析	調査が不十分(ごく簡単に概略的)	文化について基本的な調査ができていない (具体的な事例や対処法がわかる)	調査がしており、日本と比較して発見や分析したことがある	十分な調査に基づいた自分の意見を持ち、多様な視点から分析、提案をしている
その他 (自己, 他人)	クラス内のチームワーク、協働状況	目標達成のために協力できず、自分の役割を果たすことができない	目標達成のために協力しているが、チームメイトに頼ることが大きい	目標達成のために協力して、積極的に作業に取り組んでいる	目標達成のために互いに協力し、積極的かつ主導的にチームに貢献している
グループワーク ビジュアル	ICT活用 (パフォーマンス)	発表に関する文字情報やビジュアルエイドが不足しており、内容をうまく伝えられていない	発表に関する文字情報やビジュアルエイドを適切に使用しているが、やや不足している	発表に関する文字情報(字幕など)やビジュアルエイドを効果的に使用し、内容理解を大いに助けている	発表に関する文字情報やビジュアルエイドを効果的に使用し、非常に魅力ある作品に仕上がっている
他クラス連携 韓国人とのコミュニケーション	クラス内外との情報交換や連携・コミュニケーション	グループ内外の人などと情報交換をしない	グループ内外の人などと情報交換するが必要最低限である	グループ内外の人などと情報交換をし、持続的にやり取りしている	グループ内外の人などと情報交換し、良好な関係を築いている
グローバルマインド	連携できる (クラス外の連携)	必要な情報がなく、またはアクセスできない	必要な情報が不十分や誤りが多い、またはアクセスしにくい	必要な情報が正確に含まれ、アクセスも容易である	有益で貴重な情報が多く、アクセスも容易である
コメント					

### 3. 考察とまとめ

- 中国語クラス

当初、同じアジア圏内であるため、日中の文化にさほど大きな違いは見られないという想定をしていたが、その想定が覆されるような結果となったことに驚く学生

伝統的な捉え方と現代の特に若者の捉え方を比較したことで、伝統文化の辞書的な説明を鵜呑みにしてはいけないという気づきを得た学生

自文化に対しても批判的に見ることで、自文化にも多様性があるという再認識ができた学生

がいることが成果物鑑賞後のアンケート自由記述より確認された

### 3. 考察とまとめ

- 韓国語クラス

韓国文化教育を専攻する社会人中心の韓国側メンバーと韓国語を学びたい日本人大学生という双方のニーズが合致した授業設計

日韓協同で成果物を作成する過程を通して、双方の伝統文化に対する異なる捉え方に気づき、自文化に対する再認識や両国文化の共通点と相違点を考察する姿勢の獲得などもみられた

直接的な言語学習機会にも恵まれ、日本側の9割以上の学生が「韓国語で情報交換や情報提供が十分にできた」と相互評価

韓国側の大学生からは、「自分が韓国語教師になる意義や可能性を自覚できた」などの意見も見られた

### 3. 考察とまとめ

- グループ内の議論(グループワーク)  
→ 自文化も他文化もステレオタイプな捉え方に陥っていないか、  
まとめた情報は正確かつ適切か、などを見直す機会
  - 目標言語圏の母語話者との交流(協力要請・インタビュー)  
→ 伝統文化に対する異なる捉え方に気づく機会
  - クラスの他のグループや、他の言語クラスとの議論(フィードバック)  
→ Padlet上で互いに感想や意見を述べたり、質問をしたり、あるいは  
質問に回答したりすることで、自らが導いた結論に対する考察や理  
解を深める機会
- ⇒ 学習者に複層的な文化理解学習の機会を提供

### 3. 考察とまとめ

- 文化が持つ多様な側面を、単なる表面的な理解にとどまらず、その背景や変遷、異なる視点を踏まえて捉える
  - 文化の変動性・多様性を理解する
  - 複数の角度から文化にアプローチする
- という複層的な文化理解学習の試みには一定の教育効果が期待される

#### 今後の課題

自分の学んでいる言語の文化だけではなく、他の言語の文化についても「知れて面白かった！」で終わらず、「学んでみたい！」と学習者に思わせるしかけづくりをどうするか

## 引用文献

- Byram, M. (1997) Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence. Multilingual Matters Ltd.
- 西香織、阪堂千津子、池谷尚美(2021)「なぜわれわれは中・韓・独三言語連携プロジェクトを続けるのか—複言語主義の中で『連携』の意義を考える」『複言語・多言語教育研究』9:33-48